

かまくらかいどう 鎌倉街道ほとけ坂のキツネの嫁入り



むかしむかし、大正時代のはじめごろ、市場に住んでいた男の子がいました。

いつも友だちと森戸橋のそばを通る鎌倉街道のほとけ坂というところで遊んでいました。

その日は小雨がふっていましたでしたが、そんなこともおかまいなしに、いつものように友だちとほとけ坂の近くで遊んでいました。

夕暮れになり、あたりも暗くなってきたのでそろそろ家に帰ろうとしたとき、ほとけ坂の道にあかりが見えました。

おい、あれ見ろよ。この雨の中、ちやうちんの行列が歩いていって

とれだれ？

と、友だちもうす暗がりの中、ほとけ坂をくだっていき5・6個のあかりを目をこらして見ました。

あれ？なんだかあかいいぞ 本当にちやうちんかい？
5つぐらいのあかりはゆらゆらしながら、不自然にポイポイと動いています。



ちやうちんにしてはあかしな動きかただな...

ちがつや！ちやうちんじゃなくて...キツネの嫁入りだ！

二人は同時に声をあげました。

子どもたちはびっくりしてこしがぬけたようになり、

足をもつれさせながら、あわてて家に帰っていききました。



家につき、しどろもどろで両親に

おれ、キツネの嫁入りを見たんだ！

ちやうちんみたいなあかりが、

ほとけ坂をくだっていった...

でも、よく見たらちやうちんじゃなかったんだ！

お父さんとお母さんは顔を見合わせて、それはあぶ

なかつた、よくキツネに化かされなかつたと胸をなで

おろしました。

それから男の子は、夕方暗くなるころのほとけ

には近寄りませんでしたとさ。

※このお話は『毛呂山民俗誌』に掲載されている地域のお話をもとに制作しました

※本紙の挿絵と文は著作権で保護されていますので無断転載・転用できません

挿絵:中村郁恵作画 制作:毛呂山町歴史民俗資料館

住所:埼玉県入間郡毛呂山町大類 535-1 電話:049-295-8282